

ロツパ、北米などで起こった感染の急激な拡大は想像を絶するほど圧倒的で、まさに感染の大爆発と言えるものでした。感染は世界中に広がり、世界の景色はあれよあれよという間にこれまでとは全く別のものに変容してしまいました。ことに医療が崩壊あるいは崩壊寸前にまで追い込まれたイタリア、スペイン、米国等における感染者数、死者数はすさまじく、とても現実とは思えない

SFパニック



既橋病院長 天谷 太郎

新年度に寄せて

日本はこれから諸外国に比べれば、幸い、これまでのところ感染は低く抑えられているように見えますが、もちろん事態は予断を許しません。今後、ドイツ、台湾、韓国のような「成功」パターンに持ち込めるのか、それとも感染爆発、医療崩壊という「失敗」パターンに陥ってしまうのか、四月後半が我が国にとっての正念場のようにも思えますが、これを皆さんがお読みになる頃、果たして日本はどうなっ

ているのでしょうか？とても心配です。

そして、こういった状況の中でわたしたちには一体何ができるのでしょうか？ワクチンもなく、治療薬もないのですから、今の時点での唯一・最善の戦略は、ウイルスが人から人へと移っていく連鎖を可能な限り断ち切ることでしょう。これは仮定での話ですが、もし今この時点で世界中の感染している人全員が、今後の

限り減らすことがウイルスと闘う最善の方法となるわけです。ウイルスが人から人へと移るのを妨げることができれば感染の拡大は起こらない、単純なことです。ウイルスを他人からもらわない、他人に渡さない、そういう努力をすることが、今世界中でウイルスと必死に戦っている人類の一員として、われわれ一人ひとりに求められていることなのです。

とは言え、

わたしたちの職場内では、人との接触を減らすと言っても自ずと限度がありま

他人との接触を一〇〇%カットすることができたなら、新たな感染者は世界中で一人も出ないことになり、ますから、数週間後にはコロナ感染拡大には劇的にブレーキが掛かり、以後このコロナ禍は速やかに終息に向かつてゆくことになり、す。もちろん実際には一〇〇%のカットなど不可能なわけですが、自分自身を含め誰が感染しているかが分からぬ現状では、誰もが他の人との接触を可能な

す。しかし、それでもマスクの着用、手洗い、人の手が多く触れる物の消毒等をこまめに実施し、職場内でも可能な範囲で三密を避けるなど、ウイルスの感染連鎖を断つことを常に意識して行動することは大切で、す。万が一感染者が人知れず院内に入り込んでしまった場合でも、皆がこういった行動を取れば、その分被害を軽くすることができるとは思えないので、す。もちろん、感染者が院

内に侵入しないようにすることは、わたしたちにとつて何にもまして重要なことですので、県内の感染状況を見ながら当院も水際作戦を順次強化してきているところですが、当然のことながら見えないウイルスの侵入を完全に防ぐ方法などありません。侵入の可能性がなるべく小さくなるような策を注意深く巡らしつつ、全員でウイルスを持ち込まない、持ち込ませないを合

い言葉に、院の内外を問わず感染の連鎖を断つためにやるべきことを、一人ひとりがしっかりとやっていると以外に手はないのです。ワクチンや治療薬と言った切り札ができるまでにはまだそれなりの時間が必要でしょう。そして、そのどちらかができるまでこの戦いは続きます。残念ながら、それなりの長期戦を覚悟する必要があります。十分に先行きが見通せず、鬱々とした、不安でつらい日々がしばらく続きそうです。くじけぬようお互いに支え合い、皆でアイデアを出し合い協力しながらこの事態をなんとか無事に切り抜けられるよう頑張りたいと思います。皆さま

一人ひとりのご協力がきわめて大切となりますので、なにとぞよろしくお願いいたします。

最後になってしまいました。が、とても大切なことを書き忘れていることに気づきました。

最大限の注意をしていますが、知らぬ間に市中で感染してしまい、結果的に院内にコロナを持ち込む張本人となってしまう可能性は誰にでもあります。そして、誰にでも可能性があるということは、仮に職員の間が院内にコロナを持ち込んでしまうようなことが今後起こったとしても、その人が人並みに感染予防策を実施していたのであれば、非難の対象とされるようなことにはならないということです。以上を踏まえた上で、職員の皆さまにお願いです。自らが感染した疑いがあるとか、感染する可能性の高い状況になっている等、病院全体の安全に関わるような懸念が少しでもあるときは、相談に乗りますので、新型コロナウイルス感染症対策委員会に必ず情報を上げていただきますようお願いいたします。